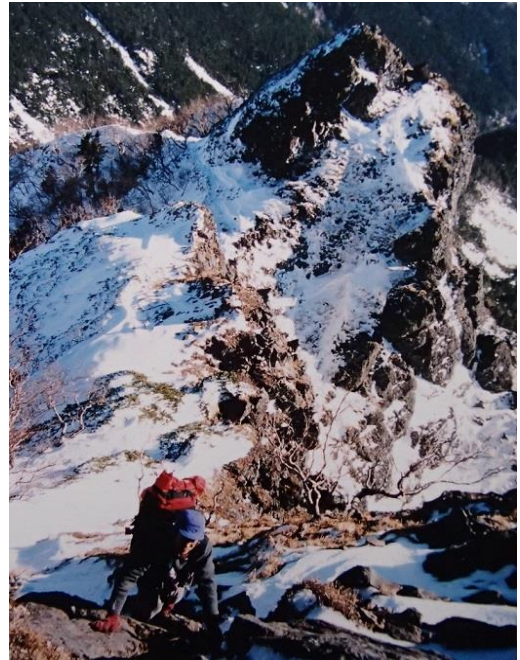


■「八ヶ岳・天狗尾根でのヒヤリハット」

1998年、この年は1月の阿弥陀岳南稜から始まり、地元の山岳会の会員たちとバリエーションルートに何度か通った。その12月12日に八ヶ岳の東面、天狗尾根から竜頭峰に達し真教寺尾根を下った山行を振り返ってみよう。

メンバーはM君、Kさんご夫妻、そして私の4名。当初は、今後の活動のために冬の地獄谷を偵察する程度のつもりだった。だから登山計画書も作っていなかった。日帰りだったので、稜線に達しようとは全く考えていなかったのである。ノートに『4:30 美し森駐車場発 地獄谷出合小屋 昼食 天狗尾根→真教寺尾根へ行こうとなった』とある。7時過ぎには小屋に着いたと思う。朝食が早かったので昼食と書いたのだろう。この日は朝から快晴だったのははっきりと覚えている。そのおかげでヒヤリハットで終わったのだとも思う。それにしても何故突然天狗尾根に向かおうと考えたのか、同じノートの5月23日に、自分が単独で天狗尾根から赤岳に達し、真教寺尾根を下山している記録があり、その記憶は全くないのだが、だからこの時刻からでも行けるだろうと考えたのだと思う。そして天気が良かった。稜線に出て景色を見たかったのだ。



赤岳沢を詰め天狗尾根に出ると美しい富士山が現れた。岩尾根を攀じ登り高度を上げて行った。その最終に3m程の岩壁があった。左側は絶壁である。ここで初めてロープを出した。Kさんがロープを付けて壁を登り、上でメンバーを確保した。その岩壁には雪がほとんど着いていなくて、アイゼンを装着したままでの岩壁登攀の不安定さに不安を感じたM君は、そこでアイゼンを外しザックに括りつけて登り始めたその時、括りつけたはずのアイゼンがザックから外れ左側の谷底に吸い込まれていったのだ。確かサレワのアイゼンだった。ああ、もったいない。いやそれよりも今後の登行に不安が生じた。

間もなくキレットから赤岳に向かう一般縦走路に出たが、かなりの急勾配。アイゼンのないM君のために足元の雪を崩しながら進んだ。やがてそのM君が「もう動けない。」と言う。朝から12時間程行動していた。バテたのかと思ったが、糖尿の気があるらしい。低血糖になったようだ。持参のオレンジジュースが功を奏したのか、しばらくすると動く気になったようだ。5時頃だったろうか、竜頭峰に着いた。天気は快晴のままだったが夕闇が迫っていた。赤岳頂上まで足を延ばす時間はなかった。

真教寺尾根は急峻である。おまけにヘッドランプも必要となった。岩稜帯では、雪面を平にしたりクサリを掘り出したりしながらの下山となった。樹林帯になりやや安心したが、雪がルートを隠していた。尾根を忠実に辿ろうとするのだが、ヘッドランプの光では方角も分からず、獣の踏み跡に足を踏み入れたり時間が多くかかった。そのうちにヘッドランプの光が暗くなりやがて消えてしまった。いざとなったら明るくなるまでビバークかと思いながら下山を続けると、スキー場のリフトが現れた。

記録によると駐車場着は22:40である。18時間の行動だった。それから諏訪湖S. A. で食事を摂り家に着いたのは午前4時となっている。天気は一日中快晴で、それが誘いとなり、またそれがヒヤリハットの範囲で済んだといえる。

2015年1月記 (や)